

■安藤公遺児の墓 (上川内字羽貫立)

慶応四年七月、平城は奮戦むなしく陥り、城主安藤公は戦下の中をいわき市桶売を経て相馬に難を避けた際、川内村上川内字羽貫立にて三歳の愛娘が病没した。

墓碑はいわき市平の諸橋久太郎氏の書で八角のコケシ人形に刻まれており、そのうち六面に遠藤悟逸、豊田君仙子、金田綱雄、河原武、中野茅炎、矢内俊晃の弔句が記されている。

石灯笼はいわき市平の諸橋元三郎氏の寄進で、遺品の護り刀は井出正人氏が保管。



■獅子舞 (諏訪神社祭礼)

本村には、高田島・西郷・町・西山の四つの獅子があり、昭和五三年に県の重要無形民俗文化財に指定されている。四〇〇年の歴史をもつ川内の獅子舞は、阿武隈高地に多く残る獅子舞の中でも歴史的文化的に価値の高いものとされ、双葉地方の代表的古典芸能となっている。

四つの獅子は、いずれも太郎獅子・次郎獅子・女獅子による三匹獅子で、女獅子をめぐっての葛藤がテーマであるが舞の展開にはそれぞれ特徴がある。素朴さの中にも力強い躍動感が見事である。これらの獅子舞には、小学生から中学生までの子どもたちが舞手となり、諏訪神社の二回の祭礼に披露奉納される。浦安の舞・神楽舞と共に、ゆかしい幻想の郷土芸能として大切に継承していきたいものだ。



■浦安の舞 (諏訪神社祭礼)

昭和一五年紀元二千六百年記念として、全国の神社に浦安の舞を奉納する事になった際、当時の棚宜、秋元善雄氏、小学校教員の井出トシさんの二人が仙台市で開催された講習会を受講されその後神社の祭典で奉納される事になった。

■神楽舞 (諏訪神社祭礼)

諏訪神社に残る記録によると、延享五年に始めて奉納されたものといわれ、以来代々先輩から、後輩に教え伝えられ、春秋の例祭に奉納されている。



■芭蕉の句碑 (長福寺境内)

みちのくの自然の美しさを称えた句碑で「月代や膝に手をおく 宵の中」と歌われている。同じく上川内太子堂境内に「しばらくは 花の上なる 月夜かな」と詠まれた句碑もあり、諸国翁墳記に「奥州月夜塚」として記載されている。

■草野心平歌碑 (平伏沼)

国指定天然記念物となっているモリアオガエルが息する平伏沼の周辺に、草野心平先生の歌碑があります。

